

平成24年度 秋田県生涯学習センター運営委員会 記録

期日	平成24年10月19日(金)
時間	午後1時30分～3時30分
会場	生涯学習センター視聴覚室
出席者	運営委員9名 生涯学習課職員1名・センター職員12名

1 開会

- 2 所長挨拶：お忙しい中、御出席いただきありがとうございます。日頃当センターへの御支援、御指導感謝します。生涯学習センターは、博物館や図書館と比較して何をやる機関であるのか見えにくい。講座イコール生涯学習センターでいいのか、考えなければならぬ。忌憚のない御意見を出していただき、当センターの今後に活かしていきたい。

3 出席者紹介及び資料確認

4 委員長及び副委員長の選任、挨拶

5 案件

(1) 「秋田県生涯学習センターの事業運営の在り方」について

① [今年度生涯学習センターの運営、講座の概要] についての説明 (副所長)

－質疑応答－

委員 A：情報誌・メールマガジンはどのように送っているのか。利用者の数値目標は、どのような基準で設定しているのか。(回答は後ほど)

② 学習推進班より [美の国アクティブカレッジ事業] についての説明 (推進班班長)

－質疑応答－

委員 A：全部の講座を無料にするのは、無理だと思うが、センターで実施する講座は受講者が集まっているが、センター以外で実施する講座については受講者が少ない。その課題解決の方策を考えているか。

職員 A：充足率の低いキャンパスをどうするかということについては、少なかったから止めるというわけではない。少ないながらも参加して下さった方をケアしていきたい。無料講座については、続けていきたい。10代からの生涯学習について、学生の取り込みをしていきたい。定着に時間はかかるが、若年層への学習機会の提供をすすめていきたい。

委員 B：講座の講師は、大学の教員が多いので、逆に大学のPRにもつながるのではないか。

委員 C：講座を地元で開催してもらってありがたかった。秋田以外の地域に行っても同じ顔ぶれの方に会う。地域の方がどれくらい受講してくれているのか。県南で開催する時、県北の方は前泊するしかない。

委員 A：上小阿仁村に高校生や大学生はいないと思う。「あいLOVEあきた」のようなセンター開催の講座を上小阿仁村で開催するなど講座の充実が必要だ。

委員 D：アクティブカレッジは受講者にとって大変良い勉強の場になっている。講座の欠席者のために、講座の開催後にその内容がわかる様な工夫はできないのか。

職員 A：講師によっては、録画や録音を嫌う人もいる。欠席者への対応としては、ホームページに講座内容を掲載したり、欠席した方には、資料を次回に渡したりするようにしている。

委員 E：学生の学びの形態が変わってきた。自己啓発セミナーへの参加が目立ち、地に足が着いていない。友達に参加するから行ってみようという感じが見える。安心安定した講座の提供がセンターの役割だと考えている。おじいちゃん・おばあちゃんと触れ合いたいという学生が増えている。

③学習情報班より [生涯学習・社会教育関係者研修、調査研究、生涯学習支援システム推進事業、IT 講習、自主企画グループ支援事業] についての説明（情報班各担当）

－質疑応答－

委員 A：情報提供として道の駅天王での取り組みは参考になるのではないかと。調査研究事業については、目標が具体的でないと行動に結びつかない。

職員 B：実践講座ⅡとⅢでは、民間からの技術を伝授していただいた。その道のプロで受講者からも好評であった。貴重な御意見ありがとうございました。

委員長：私も調査研究に係わっているが、調査研究の成果が研修講座に結びついている。チョコボラを実施した地域の委員 F さん、実施していかがでしたか。

委員 F：旧町の公民館の職員が合併により減った。公民館をなんとか蘇らせたいという思いからチョコボラに手を挙げた。チョコボラの機会を与えていただき感謝している。

委員 A：公民館を助けられるような研究になってほしい。

委員長：講座を実施する中で、生の声を調査研究に活かしていきたい。支援システムで市町村の入力状況にかなり差があるのだが、そのあたりの促進対策は。

職員 C：支援システムの研修会にはすべての市町村に参加していただいているので、また声をかけて促進していきたい。

④総務班より [施設利用状況、予算関係等] についての説明（総務班班長）

－質疑応答－

委員 A：予算額・利用者人数について、どこが課題なのかがわかりづらい。

副所長：平成 23 年度の利用者人数実績が 87,000 人であった。次年度利用者数値目標は前年度実績 + α で出している。目標を達成するためにはいかに魅力ある講座や研修を企画するか、業務として全体的に工夫・努力していかなくてはならないものと考えている。

委員 D：講堂のマイクが聞き取りにくい。

所長：委員のおっしゃるとおりです。長方形の部屋を長方形として使用していないために現れる現象ではないか。音の広がりや音のぶつかり合いで違う音の効果になる。講師には、歯切れよく話してもらうようにしている。聞きづらく申し訳ない。

委員長：本日の運営委員会の資料には予算関係など細かいところまで示してある。ここまで詳しい数字を出してもらった資料は初めてだ。

⑤ [来年度事業] についての説明（副所長）

(2) 意見交換

委員 G：生涯学習センターは県の機関であり、25 市町村すべてが平均した集客は不可能であろう。市町村と連携を取り合ってよりよい講座・研修をしていただきたい。

委員 H：講座をまとめた簡単なテープを作って全県の小学校に配布するような工夫をすると面白いのではないか。

委員 I：美の国アクティブカレッジは、土日なので参加できない。企業に研修や講座を働きかけてはどうか。秋田について知らないことがあるので、このような講座があるということ PRしてはどうか。

委員長：本日はありがとうございました。

6 その他

- ・ 諸連絡

7 閉 会

- ・ 所長謝辞：直面している課題としては、講師の方の年齢が高くなっている、ということがあ
る。委員の皆様で紹介できる講師がいたらぜひ知らせてほしい。本日の委員会ではセンター側の説明に時間をとってしまい、委員の方々の声を広く集める時間が短くなってしまったことを申し訳なく思う。御指摘いただいたことを検討していきたい。